

来週の「売り物」記事はこれ



2012年7月20日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

大型ルポシリーズ「S (ストーリー)」

映画「ヘルタースケルター」で話題沸騰

写真家 蛭川美花「撮ること、そして生きること」

朝刊 22日(日)



若い女性を中心に熱い支持を集めている蛭川美花。写真家でありながら、沢尻エリカ主演で話題の映画「ヘルタースケルター」でメガホンをとるなど、現代日本を代表する若手芸術家です。演出家の父、蛭川幸雄の「七光り」であることを断固拒否し、写真、映像という表現方法で、時代を切り取ろうとしています。私生活では3度の結婚離婚を経て、一人息子を育てるシングルマザー。



タフでクールな女性の半生に「肉薄」し、その魅力に迫りました。同世代のベテランの美術担当記者が筆をとります。

日曜朝は『S』で始まる——。ご期待ください。

シリーズインタビュー「時代を駆ける」

松本サリン事件の被害者 河野義行さん 7月24日から



地下鉄サリン事件で指名手配されていた高橋克也容疑者らが逮捕され、オウム事件捜査は一区切りを迎えました。

94年の松本サリン事件の被害者、河野義行さん(62) =写真=は容疑者扱いを受け、妻を亡くしました。しかし、「恨まず、憎まず」を今の信条に、講演、著述などを続けています。

オウム事件とその後を語ってもらいます。

「リアル 30's」番外編 暮らしナビA面 24・25日(火・水)

生きづらい時代の30代を追う「リアル 30's」。連載第2部に寄せられた読者からの反響を、2回にわたり紹介します。契約社員の不安定な身分で激務をこなす女性は、「苦しんでもがいているのは自分だけではないんだ」と連載への感想をつづっていました。精神的、経済的に苦境に立つ30代の姿を通し、2012年の日本を考えます。



豆乳を料理に活用

暮らしナビB面 24日(火)



豆乳は栄養のバランスが良く、夏バテ予防にもぴったりです。他の食材との相性も良く、普段の料理やデザートに取り入れてみませんか。料理研究家の浜田陽子さんが、豆乳を生かした「夏野菜のトマト煮」「カレーリゾット」「あずき羹(かん)」の3品を提案します。

産後ドゥーラによるサポート くらしナビA面 26日(木)

出産後の母親に付き添い、家事なども幅広くサポートする人を「産後ドゥーラ」と呼びます。孤立しがちな母親を励まし、「産後うつ」に陥らないようにケアします。5月には「ドゥーラ協会」も設立されました。東京都内での養成講座の様子を含め、取り組みを紹介します。



ロンドン五輪いよいよ開幕——華やかに、多角的に報道します

7月27日～8月12日



スポーツと平和の祭典、ロンドン五輪が27日に開幕します。近代スポーツの古里といわれる英国を舞台にした大会で、どんなドラマが展開されるのか。注目の大会を、毎日新聞は総力を挙げて取材し、迫力のある写真やイラストとともに多角的な報道をします。

大会期間中、ほぼ連日、最終面を五輪特別面とします。朝刊の最終面は、「S（ストーリー） FROM LONDON」がメイン。注目の選手や話題などをじっくりと取材、掘り下げた読み応えのある記事を掲載していきます。五輪に関する疑問にわかりやすく答える「なるほドリオリンピック」も、このページに掲載します。



スポーツ面でも、現地取材団がさまざまな角度から、五輪の迫力を伝えていきます。競泳男子背泳ぎのソウル五輪金メダリスト・鈴木大地さん陸上男子400m障害の世界選手権銅メダリスト・為末大さんら専門家による解説もお楽しみに。

毎日新聞と、中、韓の有力2紙「中国青年報」、「朝鮮日報」との協力による多面的な報道は「東からの風」のタイトルで随時掲載します。

大会前には、24日に国内外のスター選手特集、25日に日本選手団の名鑑を掲載する予定です。

競泳男子平泳ぎで3大会連続2冠の偉業に挑戦する北島康介選手、体操で男子個人総合のチャンピオンを狙う内村航平選手、女子サッカーで世界を目指す「なでしこジャパン」など、日本選手の活躍が数多く期待される大会です。感動を伝える毎日新聞の紙面にもどうぞご期待ください。



暴力団排除条例 47都道府県施行から9カ月

夏祭りの季節、市民生活にどんな影響が出ている？

夕刊特集ワイド面 23日(月)



17日にクライマックスを迎えた京都・祇園祭には約1000の露店が出た。祭りの露店は暴力団関係者の資金源だけに、京都府警は今年2割減らす方針を打ち出した。暴力団排除条例の基本的な考え方は、一般市民に「暴力団を交際しない」ことを求めている。「祭礼に関与させない」のも市民の努力義務だが、市民がそれをするのはなかなか難しいのが実情。組員に葬儀場を提供した葬祭業者に勧告が出されたケースもあるが、印刷物、事務所の引っ越しはどうか……と線引きはしにくい。「警察が暴力団犯罪を検挙すべきで、市民の犠牲の上に暴力団を取り締まろうというのは安易だ」と、元警察官僚の亀井静香衆院議員も批判している。